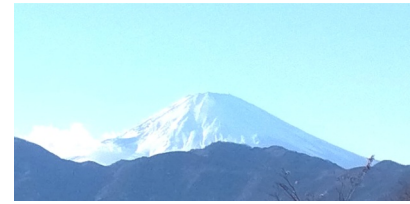


大井九条の会

大井九条の会
事務局連絡先
83-2358 二上

発足10周年の記念の年

年間計画を検討



2024年1月4日14:41
Biotopiaより富士を臨む

1月7日の定例会では、憲法センターのチラシで学習後、発足10周年を迎える今年の計画を検討しました。主なものは、1. 10周年記念行事の自身を検討した。2. 朗読劇のような行事は続けて行きたい。3. 戦時体験集5の発行を計画する。4. そのためにも戦時体験の話や、家族から聞いた話なども含め、記録に残す活動をする。等でした。

イスラエルが核兵器の使用を示唆するなど核兵器の脅威が高まる中で、改めて核兵器のもたらす被害の大きさや残酷性を考える機会となりました。力による支配が進み、世界が戦争へと向かう流れに対し、それを押しとどめるためには、戦争の真相を知り、絶対に戦争をしてはならないという決意を広げていくことが大切です。大井九条の会は、今年もそうした活動に取り組んでいきたいと思えます。

岸田政権が発足して二年が経過しました。新しい資本主義や聞く力など、安倍政権や菅政権との違いを訴えてスタートしましたが、結局は期待外れで、アメリカ従属と財界奉仕の安部路線を引き継ぎ、国民の命と暮らしは益々危うくなっています。岸田政権が推し進める安全保障政策は、アメリカの対中軍事戦略の一翼を担う立場からの大軍拡で、憲法違反の敵基地攻撃能力の保有や軍事費の倍増、日米同盟の軍事一体化など、地域の軍事的な緊張を高めるもので、岸田首相の言う「国民の命や暮らしを守るため」とは真逆の危険なものです。また暮らしに直結する経済政策の面でも無策で、実質賃金の低下と円安による物価の高騰で生活は益々苦しくなり、さらに増税や年金カット、介護・医療費の負担増など社会保障の改悪が計画されています。アメリカの言いなりに軍事費を上げ、財界・大企業を支援するために優遇措置をとり、そのしわ寄せを国民に負わせるという構造です。

次回定例会
・2月11日(日) 14時
・生涯学習センター第4会議室

発足10周年記念の 戦時体験集5を今年中に 発行予定

お話して頂けるかたを
募っています。ご連絡を
83-5875 田村/83-2358 二上

昨年の11月に、大井九条の会は発足十年目に入りました。発足からの九年間、改憲の動きに抗して、憲法を守るための活動として、毎月の定例会と年二回の平和の集い、そして戦時体験集の発行などを続けてきました。昨年は、一昨年の12月に改定された安保三文書に基づく「戦争する国づくり」が進むとともに、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中で、新たにイスラエルによるパレスチナ・ガザ地区攻撃が始まるなど、国内外で「戦争」を強く意識する一年になりました。私たちの活動も、もはや戦争が遠い昔のどこか遠くの出来事ではなく、身近に迫った危機であることを意識した活動になりました。

今年を国民の命と暮らしを守る政治の実現の年に!

8月に開催した「平和への思いを語る会」では、「78年前の戦争を考える」をテーマにして、戦時中の体験を題材にした紙芝居、手記の朗読、日舞を上演し戦争の実相を伝えると共に、参加者同士が思いを語る交流を行いました。また11月に開催した「語る会」は、『はだしのゲン』を取り上げ、中沢啓治(作・絵)による紙芝居『はだしのゲン』を大スクリーンで上演しました。ロシアと



「政治」を辞書で調べると「住みやすい社会を作るために、統治権を持つ(委託された)者が立法・司法・行政の諸機関を通じて国民生活の向上を図る施策を行ったり、治安保持の対策をとったりすること」とあります。しかし、自公政権による政治は、国民の命や暮らしのためではなく、アメリカや財界の意向に添えることで、その支持を得て権力を維持し自らの保身のために行われています。こんな政治に国民が怒りと不信を持つのは当然で、昨年末の各種世論調査で内閣支持率が過去最低を更新し、特に毎日新聞の調査では支持率が16%、不支持率が79%を記録しました。今年は、こうした自公政権の政治に終止符を打ち、国民の命と暮らしを守る憲法に基づいた政治を実現するために力を合わせていきましょう。

大井九条の会代表 田村嘉浩

日本国憲法 第二章 戦争の放棄

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。